

JVCKENWOOD

creates excitement & peace of mind

JVCケンウッドグループ

CSR 報告書 2013

Corporate Social Responsibility Report



発行にあたって

世界的な流れとして、企業の活動が財務実績だけでなく、いかに社会的な責任（CSR：Corporate Social Responsibility）を果たしているかといった社会的側面からも評価されるようになりました。

JVC ケンウッドグループは、かねてから財務報告書類（アニュアルレポート等）に加えて、「社会・環境報告書」を通じてグループの社会的責任への取り組みとその成果を紹介してきました。2013 年からは本報告書を「CSR 報告書」に改名し、企業統治をはじめとする社会的側面に関する取り組みの充実をはかり、ステークホルダーの皆様に関わりやすく情報開示していきます。

財務状況の詳細は、別途発行しているアニュアルレポートをご覧ください。

目次

3	企業ビジョン、経営方針、行動指針 企業の社会的責任 (CSR) についての考え方
4	トップメッセージ
6	グループの概要・事業紹介
特集 新たな挑戦	
8	① 新たなデザインへの挑戦
12	② 新たなマーケットへの挑戦
14	③ 新たなカーライフへの挑戦
16	JVCケンウッドの企業統治
20	お客様と JVCケンウッド
24	社会・地域と JVCケンウッド
28	お取引先と JVCケンウッド
30	従業員と JVCケンウッド
34	JVCケンウッドの環境ビジョンと環境方針
36	JVCケンウッドの環境経営
40	エコ推進計画①省エネルギーの推進
44	エコ推進計画②3R 活動
48	エコ推進計画③化学物質の適正管理
51	地球環境との対話

● ホームページでの開示

本報告書はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.jvckenwood.co.jp/csr/index.html>

● 報告書の記載対象範囲

本報告書は、国内外の JVC ケンウッドグループ各社の活動を記載しています。

● 対象期間

本報告書は 2012 年度（2012 年 4 月～ 2013 年 3 月）を対象期間として報告していますが、一部 2013 年度の内容を含みます。

● 発行

2013 年 8 月（次回発行は 2014 年 8 月を予定しています）

● 参考資料

GRI サステナビリティ・レポート・ガイドライン
第 3 版

環境省 環境報告ガイドライン（2012 年版）

企業ビジョン



企業の社会的責任 (CSR) についての考え方

企業は、人々に有用な商品やサービスと雇用の機会を提供する一方で、社会に対して何らかの負荷をもたらす存在です。特に製造業においては生産活動に伴う廃棄物や排出物、資源やエネルギーの大量消費、人口集中など、環境問題・社会問題と深い関わりを持つのが企業なのです。

しかし企業の存在抜きではこの社会そのものが存

在しえません。

私たち JVC ケンウッドグループは「企業の存在そのものが社会に対して負荷を与えるものである」という認識にたつて、企業ビジョンのもと、社会に対する負荷低減と社会貢献を企業活動の一環としてとらえ、「感動と安心」を提供していきます。

JVCケンウッドが果たす社会的責任の構成

社会的責任を果たすための負荷低減活動

- ・環境に負荷をかけない商品の設計
- ・環境に負荷をかけない事業活動、生産活動
- ・心身に過剰な負荷をかけない労働環境
- ・お客様に負荷をかけない商品、サービス、企業活動

社会的責任を果たすための社会貢献活動

- ・「感動と安心」が提供できる商品の開発
- ・地域に根付いた企業市民としての活動
- ・ステークホルダーとの接点
- ・スポーツ、文化・芸術支援活動

「感動」と「安心」で、世界の人々のライフスタイルを

新しい価値を創造する新中期経営計画

JVC ケンウッドグループは、企業ビジョン「感動と安心を世界の人々へ」のもと、お客様に「感動」と「安心」を提供するグローバル専門メーカーとして、「利益ある成長」の実現に挑戦するとともに、ひろく社会から信頼される企業となることを目指しております。

エレクトロニクス業界が戦後最大の変革期を迎えた中、2012年11月に策定した新中期経営計画では、「音」「映像」「無線通信」「エンターテインメント」をコアコンピタンスとする当社グループが持続的に強みを発揮できる事業領域を「スマートAV分野」「スマートセーフティ分野」と定義いたしました。そして、持続的な成長に向けた第一段階として、中期ビジョン「Re Design」を掲げ、情熱とスピード感をもって、グループ全体で自己改革を進めるとともに、「感動」と「安心」をお届けする商品の連打により世界の人々のライフスタイルをリ・デザインする取り組みをスタートいたしました。

リ・デザインするとともに、社会に貢献していきます。



Re Design

美しい地球環境を構築するために

地球全体の温室効果ガスは、増加の一途を辿っており、地球温暖化は、エネルギーや資源の大量消費とともに、世界経済の持続的発展に対する脅威としてわれわれの前に立ちはだかっています。2013年度は、電機・電子4団体が策定した、2020年度に向けた新たな取り組みである「低炭素社会実行計画」の初年度として、環境経営を推進しエコ推進計画2020で定めた計画を確実に実行することで、エネルギーや資源の消費による環境負荷を低減し、美しい地球環境を構築してまいります。

JVCケンウッドグループは、この取り組みによって創出した利益を、持続的な成長に向けた投資、財務基盤の強化、株主様に対する安定的な利益還元に分けていくとともに、商品・サービスの品質向上はもちろん、あらゆる企業活動の品質向上に取り組み、私たちの強みを活かした事業活動を通じて社会に貢献してまいります。同時に、地域に根ざした社会貢献活動や次世代のための環境保全活動を強化してまいります。

また、東日本大震災やタイ洪水を教訓として、経営に重大な影響を及ぼす様々なリスクへの対応と事業継続に向けた組織的な取り組みを強化してまいります。

最後に

JVCケンウッドグループは、これらのCSR活動に取り組むにあたって、皆様からのご意見にも耳を傾け、企業ビジョン「感動と安心を世界の人々へ」を成就させるために果敢にチャレンジしてまいります。

株式会社 JVCケンウッド 代表取締役社長 兼 CEO

江口 祥一郎

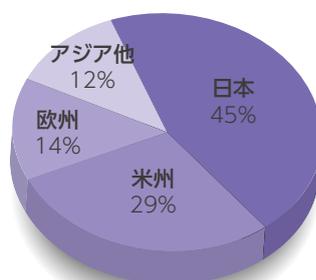
グループの概要 (2013年7月1日現在)

会社概要

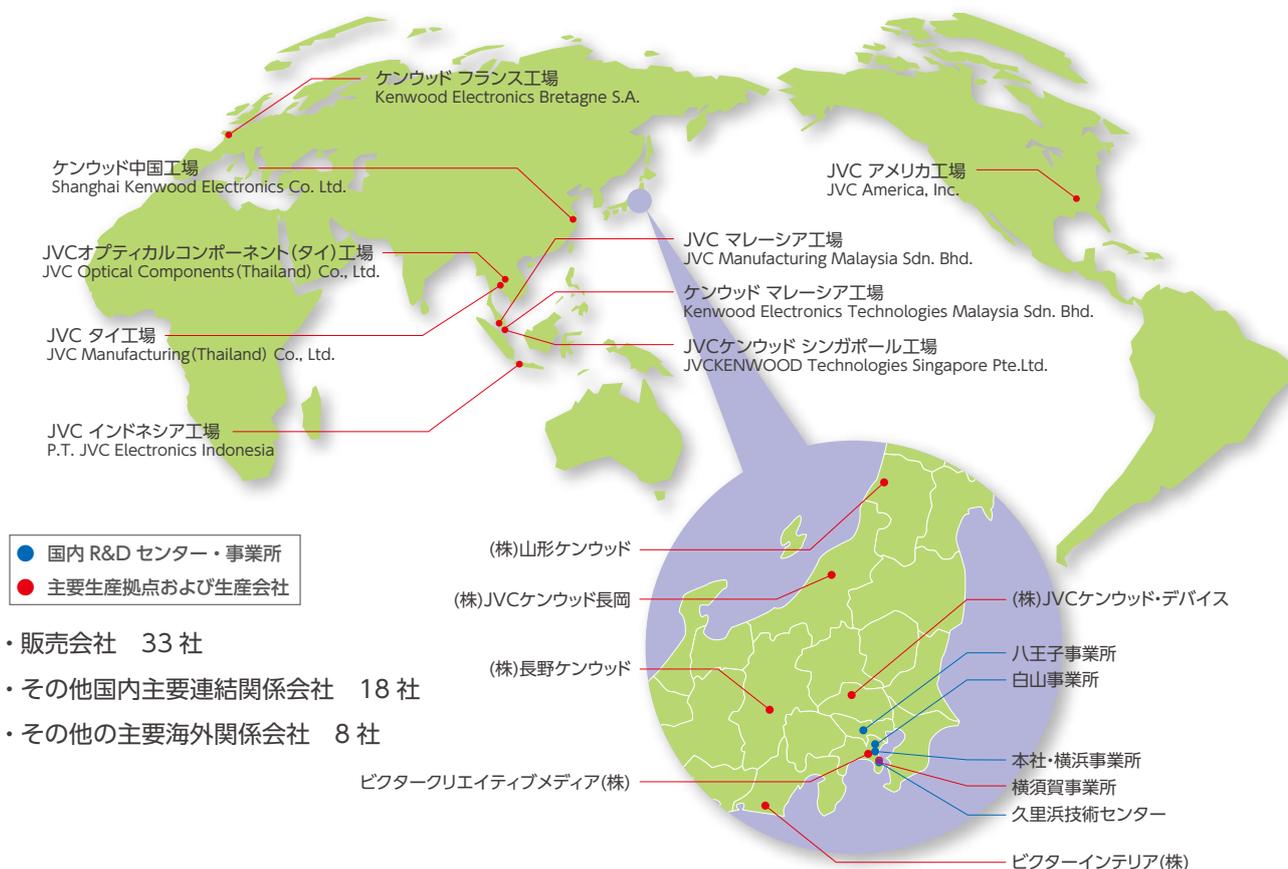
社名	株式会社 JVC ケンウッド	本社所在地	神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地
設立	2008年10月1日	連結従業員数	12,781名 (2013年3月末現在)
資本金	100億円		

主要経営指標 (2013年3月末現在)

売上高	306,580百万円 (連結)
営業利益	9,603百万円 (連結)
当期純利益	1,146百万円 (連結)



地域別売上高比率



- ・販売会社 33社
- ・その他国内主要連結関係会社 18社
- ・その他の主要海外関係会社 8社

JVC ケンウッドグループの詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.jvckenwood.co.jp/corporate/index.html>

事業紹介

カーエレクトロニクスセグメント

あらゆるメディアを最高の音質で楽しめる商品でカーAV市場をリードします。



プロフェッショナルシステムセグメント

高い信頼性とサービスによりお客様のビジネスと安全をサポートします。



光学&オーディオセグメント

長年にわたり培ってきた高画質、高音質技術により大きな感動を提供する時空間を演出します。



ソフト&エンターテインメントセグメント

映像・音楽ソフトの幅広いジャンルにわたり、質の高い多くの作品を通じて夢や感動を提供し、文化に貢献します。





新たなデザインへの挑戦

音と映像で森を感じる インスタレーションの提案

～DESIGNTIDE TOKYO 2012 への出展～

“A walk in the Forest”

JVC ケンウッドグループは、DESIGNTIDE TOKYO 2012*に参加し、快適な使い心地や感動的なデザインを実現する商品・サービスを追求する中で、付加価値の創造をテーマに「音と映像で森を感じるインスタレーション」を、JVC ケンウッド丸の内ショールームで発表しました。

* [DESIGNTIDE TOKYO 2012/TIDE Extension]

2012年11月1日～4日までの4日間、東京ミッドタウン・ホールをメイン会場に、東京都内のショップやギャラリーなどで、インテリア・プロダクト・建築・グラフィック・テキスタイル・ファッション・アートなど様々なジャンルから出展されるデザインイベントです。



森に対する想いをデザインで具現化 テーマは「A walk in the Forest ～感性の森」

情報とトレンドの発信エリアである丸の内という都会の中で、「A walk in the Forest ～感性の森」をテーマに音と映像による森の空間づくりに取り組みました。会場内は「歩く森」「見る森」「聴く森」の3つのゾーンから構成されており、木々の息吹を感じる映像、空を駆け巡る鳥の鳴き声や風の音、やすらぎを提供する様々な木々の香りで、森のエネルギーを感じる場を創出し都会で疲れた気持ちをリフレッシュするひと時を体感していただきました。



会場となった JVC ケンウッド丸の内ショールーム

期待感の創出「歩く森」、五感の覚醒を促す「見る森」

新開発のプロジェクター AV システムによって、森の中を潜り抜けるような神秘的な空間を創り出しました。

「歩く森」のゾーンでは、スクリーンに透過性のある薄い布を用いて、レイヤー感と奥行きのある映像表現で木々が揺らぐ森を表現しました。

「見る森」のゾーンでは森や空など自然をテーマに、自然の持つやすらぎを体感していただきました。コンテンツと連動し壁や天井へと投射位置を移動する映像はあたかも自然の中にいるような幻想的な空間を創り出しました。

移動する映像は、今までの固定されていた画面にはない新しい臨場感を演出することができます。

今回の展示では、前を向けば森の奥行きが広がり、上を向けば木漏れ日が溢れる空間の演出により、森の中を散歩しているような気分を体験していただきました。

ご来場の方々には、音と映像の相乗効果でやすらぎの時間を過ごしていただきました。



歩く森



投射位置を移動することができるプロジェクター AV システム YG-H1



見る森



リアルタイムでつながる「聴く森」

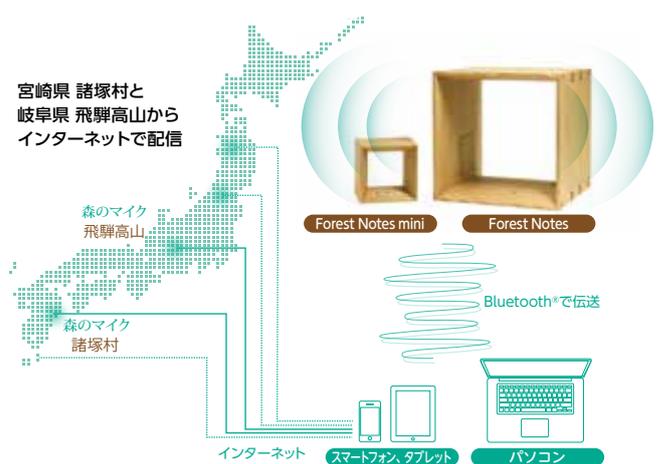
森の声をリアルタイムで聴くことができるワイヤレスアクティブスピーカー Forest Notes で、森と都会をつなぎ耳で感じる森の空間を創り出しました。

鳥のさえずり、また木々を揺らす風の音までもが、澄んだ空気とともに聴こえてくる不思議な感覚を体感していただきました。

自然の中から生まれた森の声（自然音）をライブで聴くことで、自然とふれあう機会が少なくなった私たちの生活に、少しでも潤いを感じるメッセージ

を贈りたいという想いを込めています。来場された幅広い層の皆様に興味を持っていただき、たくさんの共感のお言葉をいただくことができました。

森の入り口をイメージした正方形の工芸品のような佇まいの Forest Notes は、日本の森で大切に育てられた木材を使用し伝統工芸の技法で作られています。スピーカーであることを忘れ、訪れた人々に驚きと感動を与えることができました。





各地域のイベントに出展

プロジェクター AV システム [YG-H1]、ワイヤレスアクティブスピーカー Forest Notes [YG-FA30HV] [YG-FA2HV] は商品化の過程でたくさ

んのお客様と接し、生の声をお聞きするためにデザインタイド以外にも各種イベントに出展しました。

プロジェクター AV システム [YG-H1]



東京ドームホテル モニタープラン
2012年6月1日-30日



社会福祉法人武蔵野会八王子生活実習所
2012年11月21日



エコプロダクツ 2012 (東京都)
2012年12月13日-15日



国際ホテル・レストラン・ショー (東京都)
2013年2月19日-22日



開発担当者
映像・光学デバイス事業部
融合事業推進部
福富 弘敦

ワイヤレスアクティブスピーカー Forest Notes [YG-FA30HV] [YG-FA2HV]



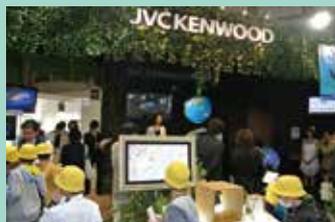
住まいの耐震博覧会 (宮城県)
山形県ブース 2012年9月23日-24日



第22回山形県林業まつり (山形県)
2012年10月13日-14日



つるおか大産業まつり 2012 (山形県)
2012年10月20日-21日



エコプロダクツ 2012 (東京都)
2012年12月13日-15日



デザイン担当者
株式会社 JVC ケンウッド・デザイン
コンシューマーデザインスタジオ
柳沼 広紀

新たな挑戦

特集2

新たなマーケットへの挑戦

新興国市場向け 無線機の開発

JVCケンウッドグループは、成長余地の大きい新興国市場の事業拡大に向けて取り組んでいます。日々目まぐるしい発展を遂げているインド市場を徹底的に調査し、ライフスタイルにマッチした無線機を開発しました。

インドで必要とされる無線機とは

インドでは、日常連絡手段として携帯電話の普及が進んでいます。無線機は警察や消防など政府系が主なユーザーであり、一般的にはまだ普及していません。しかしながら、停電が日常的に発生したり、南部では台風や津波などの災害も度々生じることから、インドにおいて無線機は非常時に人命、財産などの安全を確保するための通信手段となります。

インドのライフスタイルを徹底的に調査し、インドで求められている機能、性能、操作性、価格などを分析し、携帯電話の利用者が気軽に使える新しい無線機の開発にチャレンジしました。



コミュニケーションズ事業部
プロダクトマネジメント統括部
太田 祥司



インド向けに新たに開発した
無線機「PKT-03」

インドのインフラにマッチした新しい無線機の開発

インドのライフスタイル、無線機の使用環境を徹底的に調査した結果、一般的な携帯電話よりも小型で軽量でありながら、大音量で聞き取りやすいスピーカー出力で、シンプルに操作できてかつ持ちやすい無線機を開発しました。

サリーなどの民族衣装を含めた服の着こなしの調査から、ネックストラップでも使える大きさ、軽さに加え、暗闇で便利な高輝度 LED を使用したフラッシュライトの採用にもこだわりました。

携帯電話で使用している充電器、USB ケーブルなどがそのまま使用でき、停電時を考慮し、USB モバイルバッテリーや手回し式の充電器にも対応しました。



持ちやすさの検討に使用したクレーモック



暗闇で便利なフラッシュライト



USB 端子を使い、携帯電話の充電器で充電ができます



従来のベルト装着型ではなく、ネックストラップを取り付けて使用できます

インド市場の開拓をステップに新たな市場展開へのチャレンジ

インドにおいて無線機の利便性を訴え、大規模なモールや大型店舗、工場・倉庫内の連絡用や学校等のセキュリティ用として市場に導入し、マーケットを育て、販売拡大を図っていきます。

12 億人を超える人口を持つ南アジアの大国インドでの成功を足がかりとし、更なる新興国への展開にチャレンジしていきます。



インド駐在員の和理田 安伸（中央）と販売代理店のみなさん

新たな挑戦

特集3

新たなカーライフへの挑戦

より安全に、より快適に、 新たなカーライフの開発

JVC ケンウッドグループは、業界関係者や関連団体と協働し、人と車と道路を情報で結ぶ ITS^{*1} 技術に関するサービスの仕様や対応車載器の仕様の検討を行い、実証実験などを重ねて、新たなサービス実現に向け開発を行っています。



次世代の道路情報提供を実現する ITS スポットサービス^{*2}

2011年、全国の高速度路上約1,600箇所にて「ITS スポットサービス」と呼ばれる新たな道路上の情報提供サービスが開始されました。

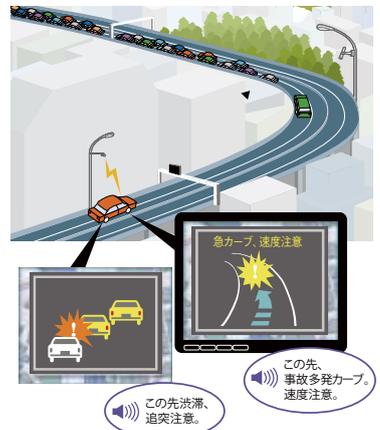
従来のVICS^{*3}と比べて、静止画や音声合成による音声案内で、更にわかりやすく安全運転を支援してくれます。

JVCケンウッドは2013年2月に



ITS スポットサービス対応カーナビゲーション MDV-Z700

発売したITS スポットサービスに対応したカーナビゲーション MDV-Z700 で、新たな安全運転支援サービスを提供しています。



高速度路上で静止画と音声で情報が提供されます

^{*1} ITS: Intelligent Transport System… 高度道路交通システム

^{*2} ITS スポットサービス: 詳細に関しては国土交通省 HP をご覧ください。 http://www.mlit.go.jp/road/ITS/j-html/spot_dsrc/index.html#top1

^{*3} VICS: Vehicle Information and Communication System… 道路交通情報通信システム



新たな ITS スポットサービスの開発

JVC ケンウッドは、新たな ITS スポットサービスとして期待される駐車場やドライブスルーでの料金決済などの実証実験に参加しています。

駐車場の料金決済

高速道路上の ETC ゲートと同様に駐車場の出入り口に設置された DSRC*路側機（以下路側機）とカーナビゲーションに接続した DSRC 車載器（以下車載器）が通信を行いスムーズに入出場ができます。駐車料金はカーナビゲーションの画面に通知され、車載器に挿した IC クレジットカードで決済処理が行われます。パーキングチケットを受け取る必要がなく、右 / 左ハンドル車への対応も不要なので省資源にも寄与できます。

* DSRC : Dedicated Short Range Communication
…スポット通信（狭域相互通信）



実証実験に参加したカー OEM 事業部
カー事業総合企画統括部のメンバー

ドライブスルーでの料金決済

某ハンバーガーチェーン店様との共同研究に参加し、実店舗で通常の営業を行いながら、新たなサービスの実証実験を行いました。

このサービスでは、店舗駐車場に入ると、路側機とクルマに設置された車載器が自動で通信を行い、おすすめ商品の情報がカーナビゲーションの画面に表示され、音声で紹介を行います。

カーナビゲーションのタッチパネルで注文を決め、ドライブスルーレーンで瞬時に注文情報を店舗に送ります。もちろん、決済は駐車場の料金決済同様、IC クレジットカードで決済することができ、決済完了後には、電子クーポンを受け取ることもできます。

この実証実験を通じてハンバーガーチェーン店様からは、お客様をお待たせしないことや、新たな広告配信の可能性に対しても高評価をいただきました。



ドライブスルーで注文するメニューがカーナビゲーションの画面に表示されます



各事業部内で実施しているコンプライアンス研修

社会から信頼される 企業をめざします

JVC ケンウッドグループは、透明性の高い経営を推進し社会から信頼される企業になるために、内部統制システムの整備、コーポレートガバナンスの充実に努めています。

コンプライアンス

CSR の根幹 : コンプライアンス

JVC ケンウッドグループでは、CSR の根幹をなすコンプライアンスを「法令の遵守を前提に、企業倫理や道義的責任を踏まえた社会的要請に応えること」

と認識し、CEO を委員長とするコンプライアンス委員会とグループ経営統括部の主導で、その活動を推進しています。

具体的推進体制

コンプライアンス行動基準

経営統合を機に、両社のコンプライアンス指針を統合する形で 2010 年 3 月に制定された「JVC ケンウッドグループ コンプライアンス行動基準」は、冊子とイントラネット (3ヶ国語対応) を通じてグループ内の全従業員に周知され、傘下関係会社のコンプライアンス担当役員 (関係会社では原則社長) を通じて徹底されています。



コンプライアンストレーナーとして
研修を担当する、
映像・光学デバイス事業部
融合事業推進部
谷山 英彦

コンプライアンス研修・社内トレーナー

コンプライアンスの理解には、eラーニング等の座学に加え、ディスカッションを通じた意見交換により、受講者がコンプライアンス上の想定事案にどのような視点からどうアプローチするかという訓練も重要です。2011 年度からは CEO 主導の下、グループ・ディスカッションを主体としたコンプライアンス研修が、関係会社を含む 14 の拠点で 29 回開催され、1,583 名が受講しました。(2013 年 3 月末時点)

また当社では 2011 年度末より、各事業部と本社組織から計 11 名のコンプライアンストレーナーを選任・養成し、今年度から更にレベルアップしたコンプライアンス教育を実施しています。

内部通報システム

グループ内には、会計・監査上の疑念を監査役室に通報する「監査役通報システム」と、それ以外の全ての疑念を法務統括部に通報する「ヘルプライン」が設置され、それぞれ通報(者)の秘密を守るため、専用の通信インフラとして運営され、選任された担当

者が受け付けています。監査役通報システムは、経営から独立して内部統制を監視する監査役会が、ヘルプラインは、コンプライアンス委員会や経営監査室と連携しながら、それぞれ行動基準や社会的要請を逸脱した行為の発見と是正に努めています。

リスクマネジメント

全社的リスクマネジメント (Enterprise Risk Management) への取り組み

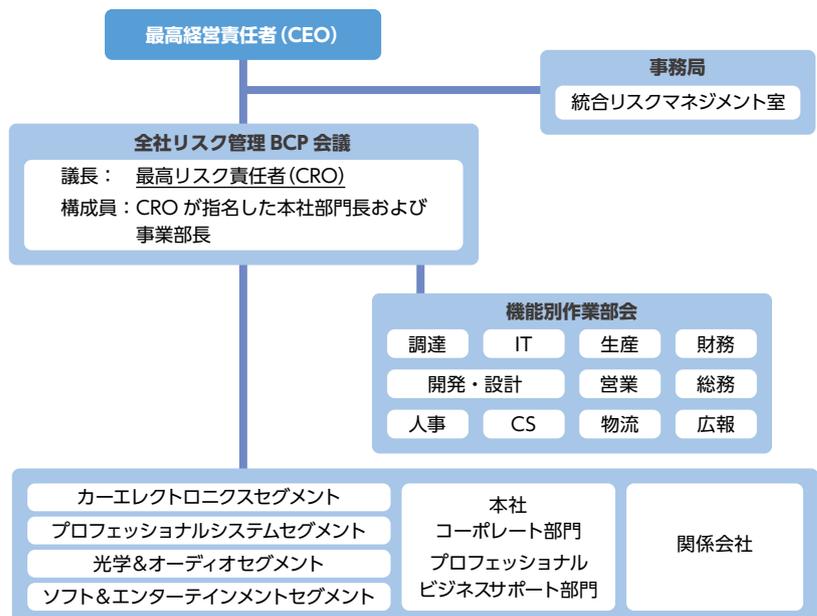
JVC ケンウッドグループは、「私たちを取り巻くさまざまなリスクは互いに連鎖・影響し合って事業計画の達成を阻害するもの」と捉えています。

そのため、全世界の各職場が直面するリスクを定期的に洗い出し、全社的な視点でこれらリスクの性質や相互の関係並びに重要性を総合的に分析・把握したうえで、より効果的に対処できるよう部門横断的

な活動を進めています。また、相互に関係し合うリスクが共通してもつ経営上の根本課題を浮き彫りにして経営層の強力なイニシアティブにより解決のための戦略を実施しています。このように、JVC ケンウッドグループはリスクマネジメントと経営戦略は事業計画達成のために表裏一体の関係であると考えています。

リスクマネジメント体制

最高リスク責任者 CRO (Chief Risk Officer) の強いイニシアティブのもとで全社的リスクマネジメントを推進する体制が構築されています。CRO を議長とし経営層によって構成される「全社リスク管理 BCP 会議」でリスクマネジメントに関わるさまざまな重要事項の審議を行っています。また、傘下にある各業務の代表者からなる「機能別作業部会」の活動を指揮し、JVC ケンウッドグループを包括して経営に影響をおよぼすリスクへの組織的な取り組みを進めています。



事業継続計画 (Business Continuity Plan)

JVC ケンウッドグループは災害や有事に際して、人命尊重を第一とし、第二に商品・サービスの供給責任を果たすことがお客様をはじめとするステークホルダーの皆様に対する社会的な責任であると認識しており、事業継続計画 (BCP) の基本方針を「非常事態発生後の速やかな事業活動の回復により、事業の継続を通じての社会の安心・安全に貢献する」と定めています。

この方針のもと、従業員とその家族の安否確認体制、防災体制、緊急用備蓄の整備はもとより、これまでに培った BCP のノウハウをさらに発展させて各事業分野の BCP 策定を順次進めています。同時に多

様なシミュレーション訓練を実施して初動対応を体得するとともに訓練によって得られた気づきをもとに規程やマニュアルの改善を図り BCP の定着化を進めています。



全事業所から代表者が参加した BCP 合同シミュレーション訓練の様子

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

JVC ケンウッドは、コーポレート・ガバナンスの強化によって経営における意思決定の透明性と効率性を高め、企業価値の向上を図ることを経営上の最も重要な課題の一つととらえています。そのため、「経営と執行の分離」、「社外取締役・社外監査役の招聘」、「内部監査部門の設置によるチェック機能向上」の体制をとり、グループをあげた内部統制システムの整備を進め、コーポレート・ガバナンスの充実、強化を図ることを基本としています。

取締役会に関する事項

取締役会は基本的・戦略的意思決定機関であると同時に、業務執行の監督機関と位置づけられ、毎月 1 回の定例開催及び必要に応じた臨時開催により、経営の基本方針や重要事項を審議、決議するとともに、業務執行状況の監視、監督を行っています。また、取締役の責任の明確化、経営の迅速性のため、取締

役の任期を 1 年としています。あわせて社外取締役を積極的に招聘し、透明性の高い意思決定を図るとともに、変革とガバナンスを主導しています。

社外取締役・社外監査役に関する事項

JVC ケンウッドは、原則として、経験、実績、専門的見地・見識等による経営の監督機能の実効性を確保する一方で、一般株主の利益相反のおそれのない独立性についても確保するため、当社の主要株主や主要取引先の業務執行者等であった経歴がないことを確認するなどしたうえで、社外取締役候補者および社外監査役を招聘し、その全員を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出しています。

執行役員制度および業務執行役員制度に関する事項

JVC ケンウッドは、執行役員制度を導入しており、業務執行機能が分化され、経営責任と業務執行責任の明確化がなされています。

変革とガバナンスを主導する取締役会では、取締役会議長と社外取締役の取締役専任者が、執行役員兼務取締役との議論を通じて意思決定を行い、業務執行を執行役員に委任しています。また、取締役会の構成員である代表取締役社長が業務執行の最高経営責任者 CEO であり、経営の監督責任と業務執行責任をあわせて負う形となっており、取締役会の意思決定を受けて CEO が議長を務める執行役員会を主導して、業務について責任をもって執行しています。また、CEO・事業部長直轄体制にすることにより、各事業部長が自らの事業はもとより、他の事業部との連携を積極的に進め、CEO が全社的視点で、横展開や複合的な開発などの指揮を執り、これをコーポレートスタッフがこれまで以上に補佐機能の活動を強化することにより、意思決定を速めて、全社組織の活性化、事業の成長の促進をはかり、CEO のもと

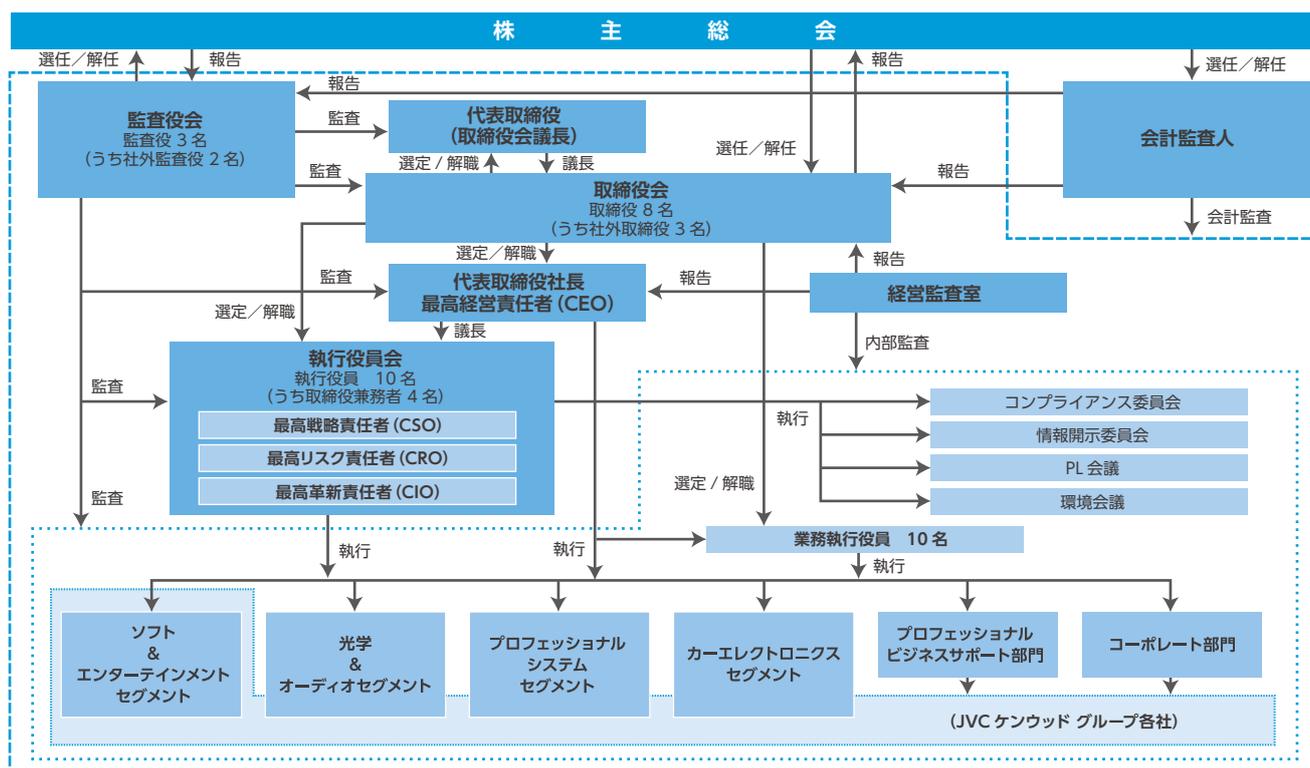
で、重要な事業部責任者、重要な販売子会社社長および重要な責任者の業務を担当する業務執行役員制度を導入しています。

監査役会に関する事項

JVC ケンウッドは、監査役会設置会社であり、監査役は取締役会その他重要会議に出席するとともに、監査役会を開催し、取締役の職務執行、JVC ケンウッドグループ全体の業務執行の監査、会計監査を実施しており、経営監査の機能を担っています。監査役会は毎月 1 回及び必要に応じて随時開催されています。

内部監査に関する事項

JVC ケンウッドは、経営監査室を設置し、JVC ケンウッドグループ内の事業会社とその関係会社まで幅広く実地調査を行い、内部統制の実施状況のモニタリングを一元的に実施することにより、事業の現場の価値観と異なる立場で問題事象の早期発見に努め、問題事象の発生に対する抑止力を高めています。



コーポレート・ガバナンス体制図 2013年6月25日現在



お客様の声が寄せられるカスタマーサポートセンター

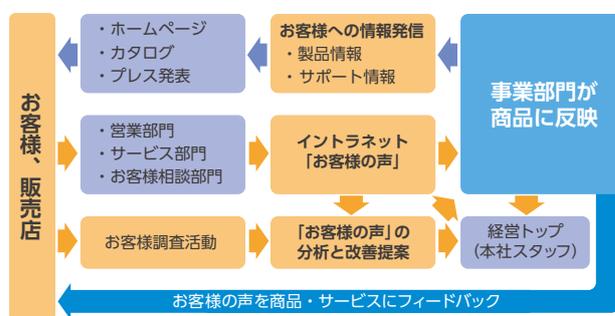
お客様に感動と安心をお届けします

JVCケンウッドグループはステークホルダーの皆様とコミュニケーションをとりながら、お客様の声を反映させた商品で「感動と安心」を提供するモノづくりを推進しています。

お客様との関わり

お客様の声を商品、サービスに反映

カスタマーサポートやサービス部門に日々寄せられるお客様の声や登録ユーザーからのご意見・ご感想を、毎日、整理・分類し、社内システム「お客様の声」で事業部門、および社内関連部門へフィードバックしています。これにより、お客様の声にもとづく商品・サービスの改善を促進するとともに、お客様への製品情報やサポート情報の提供の充実を図っています。



お客様に安心して使用していただくために

JVCケンウッドグループは、「安全・安心」をお届けするために、「製品安全に関する基本方針」を定め、ホームページに掲載して社会へ公表しています。

これを実践するために、組織体制や諸施策を「製品安全自主行動計画」として作成し、継続的な取り組みと改善を行っています。

不慮の製品事故に関しては、直ちに事実確認と原因究明を行い、安全上の問題があるまたはその恐れ

があることが判明したときは、製品の回収その他の危害の発生・拡大の防止措置を講じ、適切な手段を用いて迅速にお客様や関係者へ情報開示できるよう取り組んでいます。

また、「製品を安全にお使いいただくための正しい使い方」をホームページに掲載し、お客様が安全に安心して使っていただくためのポイントをわかりやすく解説しています。

「製品安全に関する基本方針」はホームページをご覧ください。
<http://www.jvckenwood.co.jp/safety/index.html>

KENWOOD ブランド商品：
<http://www2.jvckenwood.com/cs/safety/index.html>

JVC ブランド商品：
<http://www3.jvckenwood.com/support/info/safety/index.html>

お客様のハッピーを目指して ～人間中心設計への取り組み～

お客様の利用状況を把握して、お客様にメリットのある使いやすい商品やサービスを設計していくために、JVCケンウッドグループはデザイン部門を中心に、人間中心設計に積極的に取り組んでいます。

商品・サービスを使っていただいているお客様の利用状況を、様々な手法を使いながら調べて分析し、お客様の声の裏にある本質的な問題を掴んで、そこから発想して喜んでいただけるものを作っていく。

また作ったものが本当に期待した通りのものだった

のか検証し、その結果をフィードバックしてよりよいものにしていく、その一連の流れが人間中心設計です。



デザイン統括部 デザイン室
HCD-Net 認定 人間中心設計専門家
和井田 理科

スポーツカム ADIXXION の開発事例

スポーツカムの商品開発では、今までのビデオカメラとは違う新しいカメラの使い方を提案するために、「スポーツをしながら映像を撮って楽しむ」ってどういうことなんだろう?というテーマで、「アウトドアで激しく動くスポーツで映像を撮って楽しむ」シナリオをつくり、それを分析して商品コンセプトに反映していきました。

お客様が主人公となる感動と安心のストーリーを一つでも多くお届けするために、これからも人間中心設計に注力していきます。



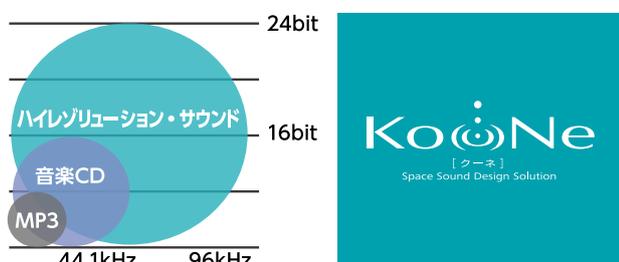
スポーツカム ADIXXION



シナリオの一例

お客様に心地よい音に包まれた空間を提供します ～ハイレゾリューション・サウンドによる空間音響プロデュース～

ビクターエンタテインメントは、豊かな自然音を再現するハイレゾリューション・サウンドおよびその専用機器と、より自然に「音」が耳に届く間接音響環境を構築することで、聴覚を中心とした「居心地の良い空間」を創造する、空間音響デザイン「KooNe™」の事業を展開しています。



ハイレゾリューション・サウンド：CDの約3倍の情報量をもつ96kHz/24bitの高音質、広帯域の音源です

まるでオフィスが屋久島の中

「KooNe™」が実現する非常にリアルで立体的な自然音（森、川、海等の音）を提供するハイレゾリューション・サウンドは、脳の活性化を促しα波を増大させてリラックス状態を導き心地よさを促進させます。この空間演出はオフィスにいながらあたかも山奥、森の中にいるような雰囲気を作りだし、癒し効果・メンタルヘルスの改善・コミュニケーションの向上などの効果を生み、企業の生産性向上などが期待できます。



屋久島で専用録音機器を使い、自然音をレコーディングするビクタースタジオ アシスタントエンジニア 永井 良和

医学的効果

奈良女子大学社会連携センター 医学博士 梅田 智広様の協力を得て、執務中の従業員を含む29名に「KooNe™」による高音質自然音を体感してもらった後で、自律神経の状態を測定したところ、交感神経が落ち着き、副交感神経優位の状態となり、リラックス状態になっていることが確認できました。



神秘的で有名な屋久島は自然音の宝庫



間接音響環境：各スピーカーから出る音が壁や床、天井に反射し、間接的に耳に届きます



株式会社内田洋行様の新川第2オフィスビルでは、「働き方変革」の実証実験が行われています。知的生産性向上を目的に「KooNe™」が導入されました

要素技術を活かした新事業への取り組み

発達障がい診断補助装置「GazeFinder」の開発

JVCケンウッドでは、これまでに培った映像技術、光学技術をベースに、連合小児発達学研究所^{*}と協働し、自閉症のこどもを短時間に高感度で検



査できる発達障がい診断補助装置「GazeFinder」を開発しています。日本では、100人に1～2人の割合で自閉症に苦しむこどもたち

とその家族がいます。

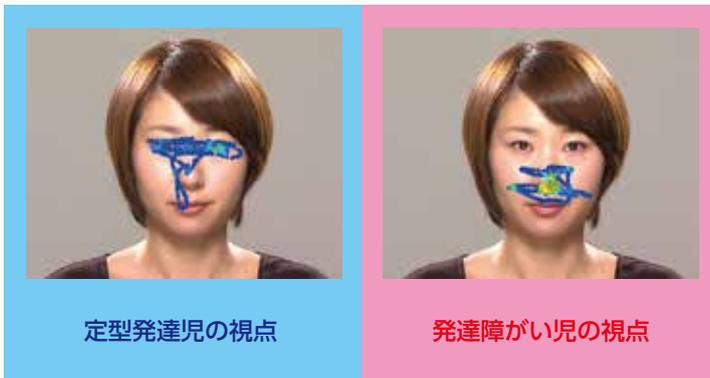
1歳半～3歳児の乳幼児健診において、モニターに映し出される映像を見る乳幼児の目の動きを解析することで、自閉症の症状の早期発見、早期療育が可能となり、社会適応性が向上します。また、専門医の不足を補います。



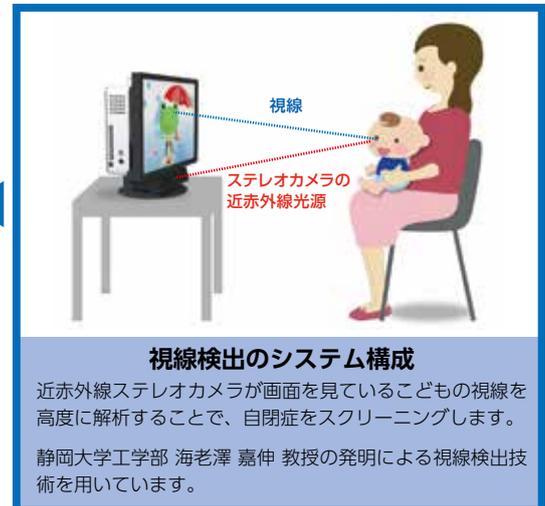
開発担当
イノベーション推進部
イノベーションセンター
中條 幸一

^{*}連合小児発達学研究所

大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の各国立大学で構成される博士後期課程のみの独立研究科です。



定型発達児は人物の目を、発達障がい児は目を外した部分を注視する傾向が強い



協同開発者の声

発達障がいのうち、自閉症圏のお子様は、乳幼児期から「相手の目を見ない」、「人物よりも、模様、反復的パターンを好む」などの特徴を示すので、発達

障がい診断補助装置を導入することにより、客観的な診断補助が期待されます。

連合小児発達学研究所 研究科長
大阪大学 教授
片山 泰一様





プロジェクター AV システム YG-H1 を使ったボランティア活動

地域に根差した社会貢献活動 に取り組みます

JVCケンウッドグループは地域との連携・交流を深め、地域社会に根差したさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

ボランティア活動

音と映像の専門メーカーの特徴を活かしたボランティア活動

2012年11月21日、JVCケンウッドは、イギリスで障がい者支援を目的とした IFA（国際アロマセラピスト連盟）アロマタッチ・リードプラクティショナーのアロマセラピスト左迫間 真澄様とのコラボレーションで、社会福祉法人武蔵野会八王子生活実習所を訪問し、障がい者の方にアロマセラピーと音と映像で、心にやすらぎを提供するボランティア活動を行いました。



私たちの開発した商品を通じて、みなさんにやすらぎの世界を提供できたことは、企画担当者として大変うれしいことです。

ボランティア活動に使用したプロジェクター AV システム YG-H1 と企画担当の映像・光学デバイス事業部 融合事業推進部 赤木 幹大

JVCケンウッドが提供する南の島、星座、地球などの美しい映像、心地よい音楽に合せた香りの演出と、アロマセラピスト左迫間様とアロマボランティアの方たちによる香りを用いた背中へのアロマタッチ・マッサージで、心と心が触れ合うやすらぎのひと時を体験していただきました。



映像と音楽でやすらぎの世界を提供しました



左迫間様による香りのクラフト体験

社会福祉団体の活動を支援

長野ケンウッドは、長野県社会福祉事業団が設立した「伊那ゆいま〜る」の障がい者の方たちの就労作業を支援するため、従業員の家庭から出る牛乳パック等を毎週提供しています。



地域のクリーン活動に参加

JVCケンウッドグループは、それぞれの地域にあわせてボランティア活動に参加しています。事業所周辺の道路でゴミ拾いを行うなど、地域の環境美化活動にも参加しています。



ケンウッド中国工場のクリーン活動

小学校でドクター・スースの本を朗読

JVCアメリカ工場の従業員は、Read Across America Dayに近隣のアルカディア小学校の300人以上の小学生に対して、アメリカを代表する人気絵本作家ドクター・スースの本で朗読ボランティアを行いました。



東日本大震災復興支援事業に参加

山形ケンウッドは昨年に引き続き6月23日に、宮城県塩竈市浦戸諸島 寒風沢(さぶさわ)島の復興支援活動に参加しました。一人暮らしの高齢者宅周辺のがれきの撤去、草刈などを行いました。



災害に備えた救急訓練

ケンウッドフランス工場では、従業員が災害に関する基本的な知識や技能を身につけるために、心肺蘇生とAEDの講習を実施しています。2012年度は従業員の36%が救急訓練を受けました。



献血へ協力

ケンウッドアメリカ販売会社は、20年以上前から米国赤十字社への献血を行っています。これまでの継続的な貢献を赤十字社から高く評価していただき、クラス最高のプラチナアワードを数回受賞しています。2012年3月にも受賞しました。



寄付

奨学金とスポーツ用具を寄贈

JVC オプティカルコンポーネント (タイ) 工場の従業員は、1月13日のこどもの日に地元の小学校に、将来強い大人に育てられることを願って、10,000バーツの奨学金とスポーツ用具を寄贈しました。



電子商取引を通じたチャリティー活動

イタリア販売会社は2009年より自社電子商取引ウェブサイト www.kenwoodstore.it の運用を開始し、毎年売り上げの0.8%を3つの慈善団体(動物アジア財団、アフリカでの児童救済団体、イタリア対がん協会)へ寄付しています。



Kenwood store ITのWEBサイトに掲載されている寄付先を紹介するバナー

クリスマスの Food and Toy Drive

2012年12月、ケンウッドとJVCのカナダ販売会社3社は、救世軍の Food and Toy Drive に参加し、各従業員が持ち寄った食料やおもちゃを地元の貧困世帯に寄付しました。



ハロウィンパーティーを通じての寄付

グループ会社 Zetron は、毎年ハロウィンパーティーを通じて集まった資金を小児病院のための基金「チルドレンズ・ミラクル・ネットワーク」に寄付しています。2012年は\$1,219.90を寄付しました。



スポーツ、文化・芸術支援活動

横浜市の文化振興を協賛

JVC ケンウッドは、横浜市の「文化芸術による賑わいづくり」を継続的にサポートしています。

2012年7月20日～10月6日の期間中、横浜を舞台に開催されたダンスフェスティバル「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2012」では、メインスポンサーの1社として協賛しました。



八景島シーパラダイスで行われたプログラムの一つ
「中学生 Rising Sun Project」

少年サッカー大会の運営をサポート

2012年5月、ケンウッドグループユニオンは、毎年主催している、U-17の16チームが参加するジョホール・バルの少年サッカー大会を、ケンウッドマレーシア工場の従業員と日本からの組合員ボランティアスタッフによって運営しました。



教育支援活動

出前教室

JVC ケンウッドグループは、「こどもたちの学力向上を支援し、社会の発展に貢献する」をコンセプトに、音響と映像の専門メーカーならではの教材を用いて小中学生に出前教室を実施しています。



森の声を聴き想像の森を描くサウンドスケーププログラム

小中学校を訪問し 5S 教育を実施

JVC インドネシア工場は、2013年1月29日に日系企業12社と共同で近隣のクタムカル村立小学校と中学校を訪問し5S教育を実施しました。



大学や専門学校から研修生の受け入れ

ケンウッドマレーシア工場では、大学や専門学校から研修生を受け入れています。大学の専攻や専門知識に合わせた貴重な体験を、将来のキャリアに活かしていただいています。



小学生の教育を支援

ケンウッド UK 販売会社は、途上国の地域開発を進める国際 NGO 団体を通じてセネガルの少女の教育支援を行っています。その結果、大好きな小学校へ通うことができています。



障がいを持った競技者へのスポンサーシップ

イタリア販売会社は、世界的に有名なパラリンピックの自転車競技でのメダリスト Fabrizio Macchi のスポンサーシップを続けています。彼の困難に立ち向かう姿勢は、私たちの生き方の手本となっています。



パラリンピックの自転車競技に出場している Fabrizio Macchi

WTCC にオフィシャルシリーズパートナーとして協賛

JVC ケンウッドは FIA 世界ツーリングカー選手権 (WTCC*) にオフィシャルシリーズパートナーとして協賛しています。



* World Touring Car Championship



マレーシアでのお取引監査

お取引先とのパートナーシップを構築します

JVCケンウッドグループは、部品調達のパートナーや販売のパートナーとともに、法令・社会規範の遵守のもとで、公平・公正にかつグローバルな視点で、相互信頼と透明性のある共存・共栄の関係構築に努めています。

部品調達のパートナーとともに

お取引先とのパートナーシップ

お取引先との双方向のパートナーシップを築いていくことを基本ポリシーとして、お取引先と一体となった商品開発を強力に推進しています。お取引先から様々な提案をいただくなど、ともに Win-Win の関係を維持することを目指し、品質、環境、納期、価格に関する調達改革を推進しています。また JVC ケンウッドグループの開発ロードマップをもとに、お取

引先の部品開発との整合をとりながら、商品開発に取り組んでいます。



お取引先との商品開発に向けて

環境への取り組み

あらゆる企業活動における環境配慮と、生産販売する商品のライフサイクルにおける環境負荷低減に継続的に取り組んでいます。その一つの手段として環境への負荷の少ない部材や製品を優先的に購入することが重要であると考えています。

特に、昨今の REACH^{*}をはじめとした国際的な化学物質管理の潮流へ対応するために、「グリーン調達ガイドライン」にもとづき、資材調達材の化学物質成分調査、および、グリーン調達評価を行っています。グリーン調達評価は、お取引先ご自身にて製品含有

化学物質管理体制を構築・維持および継続的な改善に繋げていただくことを目的に、化学物質管理体制とその取り組み状況を自己評価していただくものです。その結果に応じ、グリーン調達監査を行い、お取引先の環境管理体制の確立、環境負荷低減部材に向けた体制構築に繋げています。



グリーン調達ガイドライン

グリーン調達ガイドラインはホームページをご覧ください。
<http://www.jvckenwood.co.jp/csr/green/index.html>

^{*} REACH 規則：Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals
EC 規則 No.1907/2006 で定められた欧州における化学物質管理のための法律

紛争鉱物開示規則に関する取り組み

JVC ケンウッドグループは、ドッド・フランク法第1502条を尊重し、調達活動に取り組んでいます。コンゴ民主共和国および周辺国地域で産出され

た、非人道的行為にかかわる紛争4鉱物（すず、タングステンおよび金）を原材料として使用しない方針です。

生産のパートナーとともに

パッケージングで幅広いサービスを提供

JVC アメリカ工場の主要業務の一つとして、生産したCDやDVDのパッケージングがあります。

商品のパッケージングから出荷までを、生産パートナーとなる外部の会社と連携して生産効率アップに努めています。



カーオーディオ機器のパッケージ作業をする生産パートナー



CDやDVDだけでなくカーオーディオ機器、他社様のゲームソフト、その周辺機器などのパッケージングも請け負い、お客様へ提供するサービスを拡げて

います。

生産パートナーの高いスキルにより、高品質を維持しています。

販売のパートナーとともに

代理店様との相互コミュニケーション

2012年11月22日、カー市販事業部は全国代理店会を開催しました。

日本全国の販売店をカバーする代理店様は、当社の重要な事業パートナーです。

新体制となったJVCケンウッドとともに目標を達成するために、商品戦略、



全国代理店会の皆様にご挨拶する江口社長



代理店会議後の懇親会

ブランド戦略、新技術をご紹介し、各代理店様と相互にコミュニケーションをとり、連携を強化することが

できました。また、3年連続で開催できたことを大変喜んでいただきました。



本社・横浜事業所で開催した「納涼祭 2012」

安全で働きやすい職場環境をめざします

JVC ケンウッドグループは、従業員一人一人の成長をサポートする教育・研修体系の整備に努めるとともに、安全で働きやすい職場環境の整備に努めています。

従業員とともに

従業員と家族のファミリーイベント

JVC ケンウッドの国内外の各事業所や工場では、従業員の日頃の労をねぎらい、家族への感謝の気持ちを込めて毎年従業員と家族のファミリーイベントを実施しています。

ビアパーティー、バーベキュー、旅行など毎年工夫を凝らしたイベントに家族も楽しみにしています。

2012年10月12日、横須賀事業所で行われた



みんなで歌って踊ってとても楽しいパーティーでした。

「JVC ケンウッド秋祭り」には近隣住民や従業員の家族など約600人が来場しました。

また12月15日、JVC オプティカルコンポーネント(タイ)工場で行われた「ニューイヤーパーティー」に

JVC オプティカルコンポーネント(タイ)工場
でニューイヤーパーティーの司会進行役を
担当した業務部の
Ms.Pemika Norachetdecha

は、1000名を超える従業員が参加し、従業員による民族舞踊やダンスなどで大いに盛り上がりました。



従業員の家族や近隣住民が参加した「秋祭り」
横須賀事業所



毎年従業員が楽しみにしている「ニューイヤーパーティー」
JVC オプティカルコンポーネント(タイ)工場

能力・キャリア開発を支援する取り組み

階層別研修



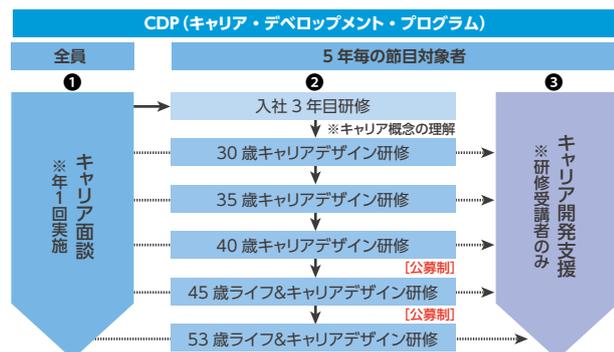
2013年4月に入社した JVC ケンウッドの新しい仲間たち

JVC ケンウッドでは、自らの役割遂行に必要な能力を高める研修や、組織の中で自らの能力を発揮するための研修を体系化して実施しています。

2013年4月に新入社員が入社しました。新入社員研修は、会社の基本的なルール・規程や社内組織のガイダンスを受けた後、営業実習・製造実習を含むトータル5ヶ月間のプログラムで実施します。

職場に配属後は、技術系の独自研修や OJT など、育成重視のプログラムで新入社員の早期戦力化とスキルアップを目指しています。

また、自らの経歴や経験をもとに「将来のありたい姿」を実現するための行動を支援するキャリア・デベロップメント・プログラムは、①キャリア面談、②キャリアデザイン研修、③キャリア開発支援で構成しています。



①キャリア面談

年1回本人と上司がキャリアビジョン（将来のありたい姿）やキャリア開発テーマについて話し合い、個人の動機と会社の期待を「すり合わせ」します。3本の柱の中で最も基本となります。

②キャリアデザイン研修

現在までの働き方を振り返りながら将来のありたい姿（キャリアビジョン）を描き、実現のために必要な行動を考えることで、多くの気づきが得られる研修です。また、参加者同士がキャリアビジョンを話し合う中で、



キャリアデザイン研修

「将来の目標に向けた自己啓発」、「家庭生活や地域とのつながり」といった、ワークとライフのバランスを総合的に考える機会となっています。

③キャリア開発支援

キャリアデザイン研修終了後に、学んだ内容や気づきを活かしさらなるチャレンジができるよう、時間とお金を含めた支援を行う制度です。この制度は、通信教育の受講、社外セミナーへの参加、資格取得などキャリアビジョン実現のためのさまざまな目的に利用されており、自己啓発はもちろんのこと、社内活性化にも効果を上げています。

仕事と家庭生活の調和を支援する取り組み

JVC ケンウッドは、従業員一人一人の多様なライフスタイル・働き方に応えられるよう、仕事と家庭生活の調和 (WLB ; ワーク・ライフ・バランス) への取り組みを年々強化しています。

育児・介護支援

育児や介護という、従業員の生活面のイベントと仕事の両立をサポートするために、さまざまな制度を設けています。2013 年度からは、育児関連の支援制度の対象となる期間を「こどもが 9 歳到達後の 3 月末まで」から「こどもが 12 歳到達後の 3 月末」まで拡大し、より利用しやすい制度としています。

制度名称	内容	2012 年度 利用状況
育児休業制度	こどもが 1 歳の誕生日を迎えた後の 4 月末 または 1 歳 6 ヶ月到達月の月末まで休業が可能	11 名が 利用中
育児短時間勤務	こどもが 12 歳に到達後の 3 月末までの期間、 法定育児時間とは別に 1 日 2 時間まで勤務時間を短縮可能	18 名が 利用中
配偶者出産時の休暇	配偶者の出産時に 3 日間の休暇を取得可能	59 名が 延べ 150 日取得
こどもの看護休暇	12 歳に到達後の 3 月末までのこどもの看護のために 年 5 日 (対象子女が複数の場合は 10 日) の休暇を取得可能	—
介護休業制度	介護を要する家族 1 人につき、 通算して 1 年間を上限として休業が可能	—
介護短時間勤務	介護休業と合わせて通算 1 年間の範囲で 1 日 2 時間まで勤務時間を短縮可能	—
介護休暇	介護を要する家族の世話のために、 年 5 日 (対象家族が複数の場合は 10 日) の休暇を取得可能	1 名が 延べ 7 日取得
時間外労働 深夜労働の制限	12 歳に到達後の 3 月末までのこどもを養育する従業員および要介護状態にある家族を介護する従業員が請求した場合に、時間外労働は月 24 時間、年間 150 時間を上限とし、深夜労働はさせない	—
退職者再雇用登録制度	妊娠・出産・育児・介護・配偶者の転勤を理由に退職した従業員が退職時に登録することで再就職が可能	1 名が 利用

時間外労働の削減

日常的な WLB 推進のため、継続して時間外労働の削減に取り組んでいます。

具体的には、事業所ごとに定時退社日を設け、終業 2 時間前に全館放送を行って定時帰宅のための業務調整を促したり、時間外労働に対する意識を高めるために社内ポータルサイトに部門別の取り組み実績を掲載したりして、従業員一人一人が自主的に時間を意識して働くことを目指した活動を展開しています。

この活動により、2011 年度に月平均 24.8 時間であった一人当たりの時間外労働時間が、2012 年度は 18.5 時間となり対前年 25% の削減を実現しました。



年休取得促進活動

時間外労働の削減に加えて、年次有給休暇の取得促進にも取り組んでいます。年休取得促進は労働組合と共同で取り組むテーマとしており、取得推奨月間と取得目標日数を定めて各職場に展開するなどの取

り組みを進めています。昨年度は職場ごとの実態調査と目標設定をより詳細に行い、従業員一人一人がきちんと休暇を取得できるようフォローしています。

安全・健康への取り組み

休職者の復職へ向けた支援

私たち全員がメンタルヘルスに対する正しい知識と認識を持ち、職場における未然防止の取り組みと、仲間に対する気遣いができるよう、継続的にメンタルヘルス研修を開催しています。

また、長期休職からの復職にあたり、無理なく業務に復帰できるよう、「職場復帰支援制度」を設けています。この制度は、長期欠勤や休職により会社を休んでいた状態から通常勤務に向けて、段階的に勤務時間や業務負荷を増やしていく「試行勤務」を行う

もので、原則として3ヶ月間のプログラムとしています。試行勤務を終了し本格復帰する段階では、



メンタルヘルス研修

産業医・医療スタッフ・職場上長などの関係者による「復職判定会議」を開催し、関係者全員で復職にあたっての配慮の内容や支援体制について確認します。

長時間労働対策

長時間労働はやがて過重労働となり、健康障がいやひいては過労死にもつながりかねない重



産業医による健康管理指導

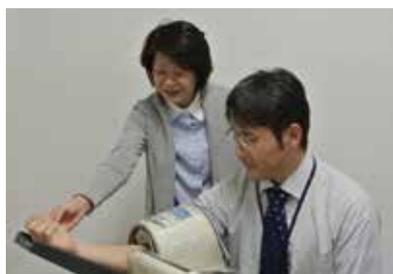
要な社会問題となっています。

長時間労働者に対しては、産業医による面接指導や問診などを課し、時間外労働の削減と合わせて健康障がい防止に努めています。また、定時退社日を設けたり、安全衛生委員会でも長時間労働の削減に取り組んだり、積極的な取り組みを行っています。

労働安全衛生

従業員の安全と健康を最優先する企業風土の定着を目指し、安全衛生委員会を中心とした安全衛生活動を行っています。

安全面の活動では、職場の潜在的な危険箇所を発見し、最小化する「リスクアセスメント」の導入や安全衛生委員による職場巡視の実施など、災害ゼロから危険ゼロに向けた取り組みを行っています。



健康管理室では気軽に健康相談ができます

衛生面では、産業医と連携した定期健康診断の事後措置や健康管理室における健康相談により従業員の健康管理をサポートし



従業員が休憩など多目的に使えるラウンジ
写真は本社・横浜事業所

ています。また、分煙対策の徹底や事業所内におけるリフレッシュスペースの設置など、快適な職場環境づくりを推進しています。

事業活動を通じて 美しい地球環境を

私たちの暮らす地球は「地球温暖化」、「有害物質による汚染」、「生物多様性の損失」、「資源不足」など、このような世界的な大きな動きに適切に対応するために、JVC ケンウッドグループで「3R 活動・化学物質の適正管理」を活動項目として、美しい地球環境を次世代に引き継ぐために取り組んでいます。

環境ビジョン

私たちは、環境負荷低減を常に意識した行動に取り組むエコ推進企業として社会に貢献して行きます。

環境方針

すべての事業活動、製品開発およびサービスにおいて、環境に与える影響を十分に認識し継続的に改善することにより、地球環境と資源の保全、汚染予防を図り、環境に配慮した企業経営に取り組みます。

1. 地球温暖化防止のために、環境負荷を低減する技術や商品の開発に取り組み、事業活動を含めたライフサイクル視点での CO₂ 排出量の削減を進めます。
2. 限りある地球資源の有効活用のため、3R 活動を中心とした資源の使用削減やエコ素材の積極採用などにより、循環型社会の実現を目指します。
3. 地球の環境と生物に影響を与える化学物質を管理し、継続的な削減と安全物質への代替に努めます。
4. すべての事業活動、製品開発およびサービスが生物多様性に影響するという認識に立ち、総合的な環境負荷の低減に努め、自然環境との調和を目指します。
5. 環境側面に適用する法規制およびその他の同意した要求事項を順守します。
6. 環境保全の啓発として従業員に対して環境教育を行います。

保全します

源枯渇」などの問題に直面しており、世界各国・各地域で解決の動きが活発に行われている。「環境ビジョン・方針」のもとで「エコ推進計画 2020」を策定し「省エネルギー推進」ために地球規模での環境保全に貢献するよう努めています。

エコ推進計画 2020

①省エネルギー推進

- 事業所および生産拠点における省エネルギー
- 省エネルギーに配慮した商品開発 (LCA の活用)
 - ・待機時、使用時の電力削減
 - ・小型化、軽量化 (輸送エネルギーの削減)
- 省エネルギーに貢献する要素技術開発



地球温暖化による動植物の生態系などへの影響を低減

②3R 活動

- 資源循環に配慮した商品開発
 - ・エコ素材およびリサイクル素材の採用
 - ・3R 設計手法の全社展開 (分解性向上、省資源など)
- 廃棄物削減と再資源化
 - ・国内生産、事業拠点の廃棄物ゼロエミッションを維持
 - ・海外生産拠点における廃棄物ゼロエミッション



鉱物資源の採掘による生態系などへの影響を低減

③化学物質の適正管理

- グリーン調達推進
 - ・お取引先のグリーン度レベルの改善
- 製品の有害物質削減
 - ・安全物質への代替推進
- 事業所の有害物質の適正管理と代替推進



大気汚染や土壌汚染による生態系などへの影響を低減

④生物多様性の保全

すべての事業活動、製品開発およびサービスが生物多様性に影響するという認識に立ち、総合的な環境負荷の低減に努め、自然環境との調和を目指す。



2013年4月環境会議

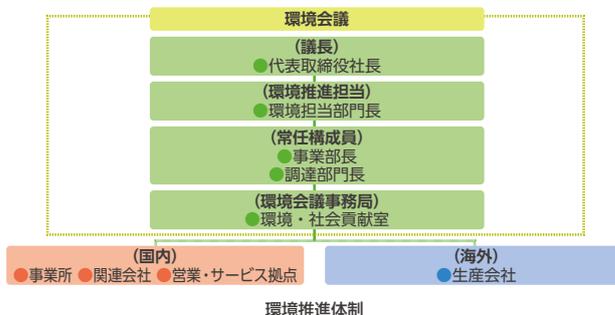
全社横断で環境経営を推進します

JVC ケンウッドグループは、環境に負荷をかけない商品の開発、環境に負荷をかけない事業活動、生産活動の推進を確実に成果に結びつけるために全社横断で環境経営を推進しています。

環境推進体制

環境会議

JVC ケンウッドグループの環境経営活動は、経営層による最上位の意思決定機関である「環境会議」で決定された方針・施策を全社的に展開し、環境経営を推進しています。



環境マネジメントシステム

JVC ケンウッドグループは、ISO14001の規格にもとづいて環境マネジメントシステムを構築し国内グループおよび全海外生産拠点で認証を取得し維持しています。2012年度



JVC アメリカ工場の環境管理責任者として地域貢献活動にも積極的に取り組む
Ms. Felicia Gross

からは JVC とケンウッドの環境マネジメントシステムを統合した運用を開始し、統一の環境方針をもとに国内の全事業所、非生産拠点、関連会社を含めた認証取得を進めています。



日本	統合取得		海外	単独取得	
	事業所	拠点数		生産会社	拠点数
	事業所	5	海外	生産会社	10
	関連会社	9			
	非生産拠点	41			

環境コミュニケーション

エコプロダクツ 2012 に出展 ～テーマは「地球を感じる」～

JVCケンウッドグループは、これまで培ってきた映像・音響などの要素技術を活かして、企業ビジョンに掲げた「感動と安心」を提供する商品・サービスの開発を進めるとともに、地球環境と共生する社会の実現に向けて取り組んでいます。

2050年のライフスタイルを視野に入れて、地球を身近に感じられるように、人々の感性にアプローチする取り組みの成果を「エコプロダクツ 2012」に出展しました。



JVCケンウッドが考える 2050年までの社会とのかかわり



JVCケンウッドブース
テーマ「地球を感じる」



触れる地球

京都造形芸術大学の竹村 真一教授がプロデュースする次世代デジタル地球儀「触れる地球」のプロトタイプを使い、生きた“地球を感じる”を体験していただきました。



スピーカーシステム Forest Notes

日本のクラフトマンシップの技で、美しい工芸品のように仕上げたスピーカーです。飛騨高山などに設置されたマイクからライブで配信される森の声を体験していただきました。



地球感共シアター

高音質自然音（森、川、海等の音）によるハイレゾリューション・サウンドと空間音響デザインに、プロジェクターによる美しい映像と組み合わせ、心地よい空間を体験していただきました。

環境会計

環境保全コストの分析

JVC ケンウッドグループは環境省のガイドラインに沿った環境会計を導入し積極的に情報公開をすることによって、透明性のある精度の高い環境経営を目指しています。2012 年度の環境保全コストは、設備投資で 141 百万円、経費で 701 百万円となっています。設備投資が前年より増加していますが、海外での空調設備更新等地球環境保全に係る投資が大きな要因です。また前年と比べ大きな変化があったのは、「事業エリア内コスト」のうち資源循環経費の増加、「上・下流コスト」のうちグリーン購入経費の増加、「管理活動コスト」のうち化学物質管理運営経費の減少、となります。全体として設備投資、経費ともに増加しているものの、「事業エリア内コスト」の環境負荷低減活動に伴う増加が主な要因となっています。環境効果では、2012 年度設備投資による省エネ効果や廃棄物有価売却益の増加により、その金額は前年から大きく増加しました。今後も、環境保全コストの適正な運用により、環境負荷低減活動を推進し、環境効果の確保を図っていきます。

JVC ケンウッドグループ 環境保全コスト：環境保全活動のための設備投資と経費（百万円）					
項目		内容	設備投資	経費	合計
事業エリア内コスト	公害防止	大気、水質など公害防止のために必要な費用および投資	8.40	87.82	96.22
	地球環境保全	地球温暖化防止、オゾン層保護にかかる費用	117.87	27.40	145.27
	資源循環	廃棄物削減、リサイクル、再資源化費用など	14.82	102.23	117.05
小計			141.09	217.45	358.54
上・下流コスト		エコ商品やグリーン購入のコスト、廃家電対策、包装容器リサイクル等	0.00	151.15	151.15
管理活動コスト		環境にかかわる管理コスト、ISO 取得・維持、研修、スタッフコスト	0.10	331.17	331.27
研究開発コスト		エコ商品開発、省電力、有害化学物質代替技術開発コスト	0.00	0.00	0.00
社会活動コスト		アメニティ対策、寄付、支援金や情報公開、環境広告、環境展示コスト	-	0.88	0.88
環境損傷等コスト		土壌汚染等の修復費、補償金、罰金等その他コスト	0.00	0.55	0.55
合計			141.19	701.20	842.39

環境効果		環境保全活動による電気使用量および廃棄物処理費用の削減等		効果金額（百万円）	
分類		2012 年度	過去分の累計		
削減効果	事業場省エネルギー	71.74	89.34		
	廃棄物処理費用の削減	2.14	2.14		
	上下水費用の削減	20.70	20.70		
	包装材および物流費用の削減	1.15	1.15		
収益	工場廃棄物のリサイクルにかかる有価売却益	126.73			
	使用済み製品のリサイクルにかかる有価売却益	0.02			
合計		222.48	240.08		

環境会計の対象範囲

期間	2012 年 4 月 1 日～ 2013 年 3 月 31 日
集計範囲	JVC ケンウッドグループ 国内 R&D センター、事業所・工場 本社・横浜事業所、八王子事業所、白山事業所、横須賀事業所、久里浜技術センター、 ピクチャークリエイティブメディア（株）、ピクチャーインテリア（株）、（株）山形ケンウッド、（株）長野ケンウッド、（株）JVC ケンウッド・デバイス 海外生産会社 JVC アメリカ工場、JVC マレーシア工場、JVC タイ工場、JVC オプティカルコンポーネント（タイ）工場、JVC インドネシア工場、ケンウッド中国工場、 ケンウッドマレーシア工場、ケンウッドフランス工場、JVC ケンウッドシンガポール工場、JVC ケンウッドエレクトロニクスシンガポール

参照ガイドライン：環境省「環境会計ガイドライン 2005 年版」

目標と実績

2012年度 環境目標と実績

JVC ケンウッドグループはモノづくりの中でライフサイクル的視点のもと、お客様のニーズに対応しながら環境負荷低減のため、毎年目標をかかげ取り組んでいます。

2012年度の活動実績としては当初の目標を達成することができました。

活動項目	2012年度目標 (2012年4月1日～2013年3月31日)	評価
省エネルギー推進		
製品の省エネルギー	モデルごとの製品アセスメントの目標を設定し、実行	○
事業活動での CO ₂ 排出量削減	1% 以上 (2011 年度比)	○
3R活動 (Reduce/Reuse/Recycle)		
省資源・リサイクル性	モデルごとの製品アセスメントの目標を設定し、実行	○
廃棄物 ①総発生量の削減	1% 以上削減 (2011 年度比)	○
②ゼロエミッション化	99.5% 以上	○
化学物質の適正管理		
グリーン調達	お取引先のグリーン調達評価実施	○
工場の化学物質	事業活動で使用する化学物質の保管 / 使用 / 排出 / 移動量を管理	○
環境リスク		
有害化学物質不使用	グリーン調達ガイドラインの遵守	○
環境リスク	当社保有の低濃度 PCB 含有絶縁油無害化処理を全て完了	○

評価の基準： ○目標達成 △目標一部未達成 × 目標未達成



UBZ-EA20Rの開発関係者たち

省エネルギー活動で CO₂削減を推進します

JVC ケンウッドグループは、商品の消費電力、待機電力を減らす技術や小型軽量化する技術を追求し、環境負荷の低減に積極的に取り組んでいます。

省エネルギーに配慮した商品の開発

単3電池1本で長時間動作する特定小電力トランシーバー UBZ-EA20R

①企画編

特定小電力トランシーバーは日本国内で免許不要で、購入したその日から手軽に使用できる無線機です。ケンウッドブランドの特定小電力トランシーバーはこのマーケットで40%超のシェアを持ち、レジャーからビジネスシーンまで幅広い用途でご使用いただいています。



企画背景を語る山形ケンウッド第一技術部 システム技術 G 板垣 清彦

ロングセラーのUBZ-Lシリーズ(乾電池3本使用)は元々レジャー用として企画開発しておりますが、ビジネスシーンでも多く活用されるようになり、市場では、業務にも耐える環境性能^{※2}(防水性、耐久性)を備え、軽くて乾電池1本で長時間使用できる特定小電力トランシーバーが求められていました。



単3アルカリ乾電池1本で、最長72時間^{※1}使えるUBZ-EA20R

震災等で乾電池の入手が困難になったこともこの企画を後押ししてくれました。

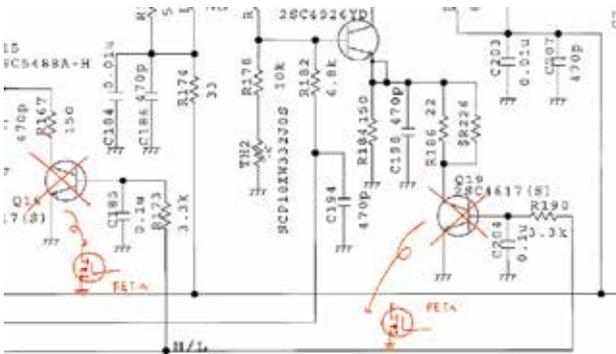
※1 オプションのイヤホン付クリップマイクrohon (EMC-3) を使用時

※2 屋外でも安心して使用できるように、無線機本体は防塵・防水レベルIP55に対応しました。本体の外装に耐衝撃性の高いポリカーボネート樹脂を採用したことで、アメリカ国防総省の軍用規格 MIL-STD-810G に対応した高い堅牢性を備えています。

②技術編

●既存回路の地道な見直し

老舗無線機メーカーとして、回路には歴史と伝統に裏付けられたノウハウが結集されているため、既存回路の消費電流の見直しは慎重を極めました。数mA単位で消費電流を削減する検討を行い、送信回路や電源回路などのトランジスタを一部FETに変更するなどの回路の見直しを行いました。



回路設計関係者が集まり設計の見直し

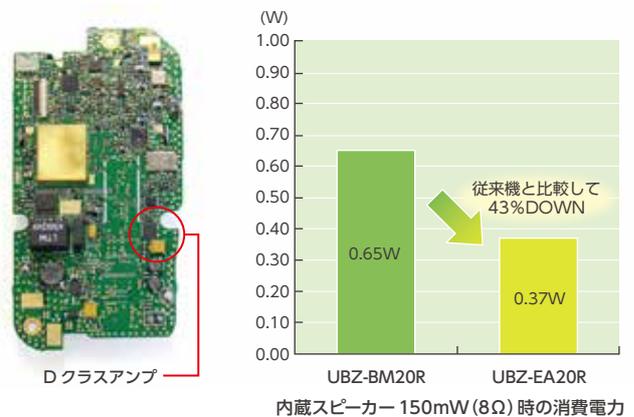
●低電圧で動作する回路を設計

従来機種の内蔵回路の動作電圧は3Vでしたがこの機種では2.8Vへ下げ、諸性能が確保できるのかどうか、設計の見直しを行いました。動作電圧を下げることで、電池電圧1.5Vを昇圧させるための効率が上がり省電力化につながりました。

●Dクラスアンプの採用

内蔵スピーカーを駆動するアンプはDクラスアンプを採用し、アンプの消費電流を大幅に削減しました。

内蔵スピーカーから150mWの音を出力したときのアンプの消費電力は従来機(UBZ-BM20R)と比較して43%減少しました。



●ソフトウェア上の工夫

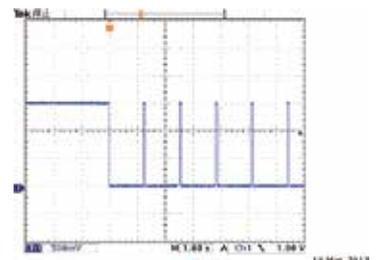
消費電力を抑えるバッテリーセーブ機能として新たに「ecoモード」を搭載しました。

「ecoモード」では受信の待ち受け時に、受信段の電源を間欠動作(ON/OFFを高速で切り替えている)させています。電源がOFFしているタイミングで、受信したときの違和感をできるだけ感じさせないような工夫を施しています。

その結果、「ecoモード」でオプションのイヤホン付クリップマイクロホン(EMC-3)を使用した場合、当社の測定条件で単3電池1本で約72時間の長時間動作を実現することが出来ました。



バッテリーセーブ機能に新モード「ecoモード」を搭載。

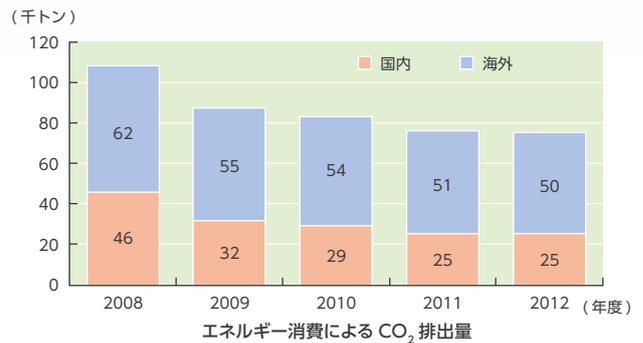


「ecoモード」時の受信段の電源波形

事業所の省エネルギー活動

グローバルな省エネルギー活動

JVCケンウッドグループは、省エネルギー活動として空調機器の細かな管理、昼休みの消灯等の節電を習慣としています。また、空調機器のインバーター化、LED照明等の設備導入、業務の効率アップや工場の生産性を向上させる活動を通じて、地球温暖化におよぼす影響がもっとも大きい温室効果ガスであるCO₂排出量の削減に努めています。



空調機の省エネルギー推進 ●

ビクタークリエイティブメディアでは省エネルギー推進策として空調機用インバーターを導入しました。インバーターは電気の周波数を自在に変える電力変換装置で運転時の効率を大きく改善することができ、近年は利用分野が拡大しています。空調は1年中休むことなく24時間稼働しており、夏場以外の強力な冷却が必要でない時期でも毎月ほぼ同じ電力消費となっていました。インバーター導入後は室温に合わせた効率運転が行われ、夏場以外の電力消費がほぼ半減され、年間平均で導入前の約37%、年間約104,000kWhの大幅電力削減となり、省エネルギーへの取り組みができました。



ビクタークリエイティブメディア 業務部 総務グループ 風岡 博幸

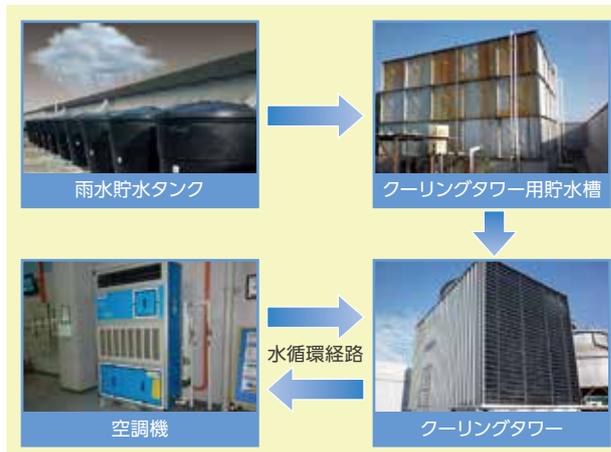


雨水の活用

ケンウッドマレーシア工場では空調システム、トイレ、飲料用などに多量の水を使用し、特に空調冷却で使用する量は全体の約 30% をしめます。そこで赤道直下の熱帯雨林気候の環境を活用した「雨水」の有効利用を導入しました。方法は雨水貯水タンクを設置して空調冷却用の貯水槽に雨水を供給し、水道水と併用する仕組みです。その結果、毎月の水道水使用量が約 20% ~25% 削減することができました。



Mr. Chandran
Engineering Department
Head



LED 光源で接着剤を硬化

JVC オプティカルコンポーネント (タイ) 工場では車載 DVD/CD ドライブ用のピックアップを生産しています。この生産工程で部品を接着する時に接着剤を使用しています。従来はハロゲンランプ光源で接着剤を硬化させていましたが、新モデルより LED 光源で硬化する UV 接着剤に変更しました。これにより光源の消費電力が約 1/4 となり大幅な省エネルギーへの取り組みができました。



Mr. Surachai
Production Department
Deputy Department
Manager



加湿器変更で湿度管理向上と省エネルギー推進

ケンウッド中国工場では実装室の冬場湿度管理レベル向上が品質課題となっていました。この課題をクリアし、さらに省エネルギーを推進させるために、従来の電極式蒸気加湿器から細霧式加湿器への設備交換を行いました。その結果、品質要求の湿度維持および消費電力が 1/5 以下となり大幅な省エネルギーへの取り組みができました。



Mr. Yutong
General Administration
Manager





3DCAD で構造検討している設計者

3R 活動で循環型社会に貢献します

JVC ケンウッドグループは資源環境に配慮した商品開発、廃棄物削減と再資源化の 3R 活動を推進し循環型社会に貢献しています。

3R 設計の推進

3R 設計を追求した全世界向けカーオーディオ

カーエレクトロニクス事業は、カーオーディオ、カーAVシステム、カーナビゲーションシステム、車載機器用 CD/DVD メカ、光ピックアップで構成され、JVC ケンウッドグループの約 1/3 の売り上げを占めています。

カーオーディオ、カーナビゲーションは北米、欧州市場で業界トップレベルのマーケットシェアを獲得、維持しています。また、車載機器用の CD/DVD ドライブメカニズム

は、業界トップレベルの品質、商品力とコストパフォーマンスで、国内はもとより、欧米の自動車用品メーカー様からの大型受注を獲得しています。



3R 設計の成果を語る
カー市販事業部
オーディオ技術部
猪野 博司

このようにカーエレクトロニクス事業では生産・販売している台数が多いという点を生かした、3R に配慮した商品開発を推進することにより、循環型社会に大きく貢献しています。

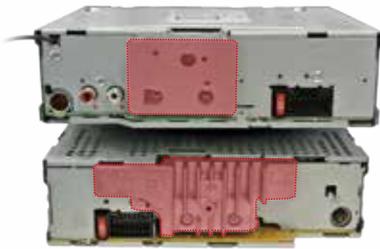


3R 設計の集大成 CD メカレスモデル

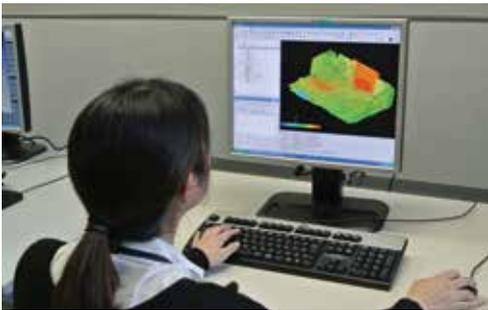
①解析技術を用いた小型化軽量化

高性能化するオーディオ機器が小型軽量化する一方で、商品の内部にある電子部品から発生する熱を効率良く放出する必要があります。

熱解析技術で温度分布と空気の流れを可視化し、商品内部で発生する熱を効率よく放出するヒートシンクを設計しました。材質と加工方法および形状を吟味し、ヒートシンクの質量で約50%の軽量化、体積で約60%の小型化を実現しました。



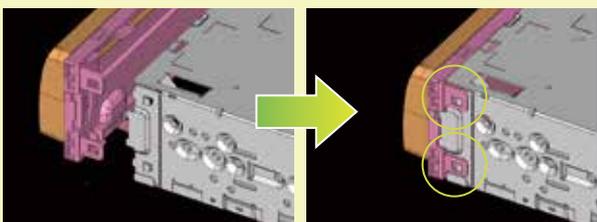
上: 質量で約50%の軽量化、
体積で約60%の小型化したヒートシンク
下: 従来機



熱解析技術を用いてヒートシンクの温度分布を可視化します

②組み立てやすい=分解しやすい

商品の開発段階では、リサイクルとリデュースを考慮し、ネジの種類と総本数の削減を検討するほか、ネジを使用しないで図のような爪による引っ掛け構造を採用し、組み立て性と分解性を両立させ、樹脂部品と金属部品の分別が容易に行える設計を推進しています。



爪による引っ掛け構造

③部品点数および質量の大幅な削減

デジタルオーディオ機器専用のCDメカレスモデルの開発により、総部品点数の削減、シャシ部品やプリント基板のサイズ および 質量を大幅に削減できました。

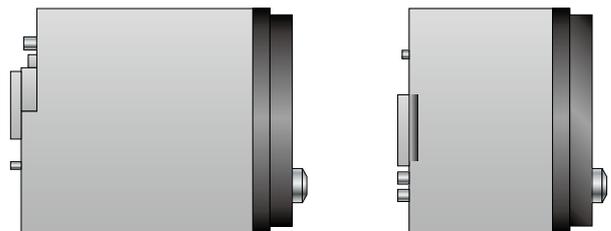
当社CDレーザーモデルとの比較で、部品点数で約23%の削減、質量では約45%もの削減を実現しました。

	総部品点数	質量
CDレーザーモデル	約950点	約1.1kg
CDメカレスモデル	約730点	約0.6kg

また、製品のコンパクト化により包装箱のサイズも体積比で約30%と大幅に縮小となり、製品輸送エネルギー削減に向けての貢献や、リサイクル対象の段ボールと緩衝材の質量を削減したことで環境への影響を低減しています。



CDメカレスモデル



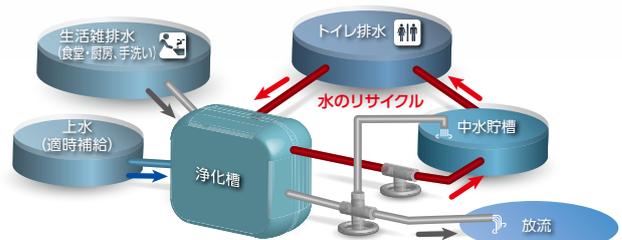
CDレーザー (左) と CDメカレスモデル (右)

リサイクル活動

水のリサイクル

JVC ケンウッドグループは、水も大切な資源と考え生産工程での効率改善、漏水対策や節水活動を進めてきました。

本社・横浜事業所ではトイレ排水や食堂・厨房からの生活雑排水を浄化し循環利用することで、年間で約 5000m³の水のリサイクルを行い、上水や工業用水の使用量削減に貢献しています。



本社・横浜事業所 再生水利用による水使用量削減

僅かな廃材も有効利用

ビクターインテリアでは、家具製造工程で発生した廃材をチップ化しボイラー燃料として有効利用しています。ダイオキシンを発生させない材料なので地球に優しいサーマルリサイクルです。



欧州における廃電気電子機器の回収、リサイクルの向上について

JVC ケンウッドグループでは、よりリサイクルしやすい商品を提供するために 3R 設計を推進し、欧州の廃電気電子機器指令 (WEEE) を遵守したリサイクルに取り組んでいます。

各欧州販売会社では、廃電気電子の回収スキームに積極的に参画し、製造者責任の義務を果たし、リサイクル委託会社にリサイクルに必要な分解手順情報書や製品情報を



ドイツで欧州における環境関連規制、法規に関する情報の収集と、販売活動をサポートしている
Mr. Andre Overbeck

モデルごとに開示しています。2014 年 2 月以降、全ての EU 加盟国では、電気電子機器の販売敷地面積が少なくとも 400m²を有する店舗では小型家電機器を無償で回収することが義務付けられました。

私たちは、小型家電の回収がスムーズに導入できるように、より環境に配慮したリサイクルシステムの構築に貢献していきます。



フランスの店頭へ備えられた小型家電回収箱

廃棄物削減活動

ゼロエミッションを継続して廃棄物削減を推進

JVC ケンウッドグループは活動指針の見直しを行い、基準年を 2011 年度に再設定し、国内における排出物発生総量の削減および再資源化に向けた取り組みを推進しています。その結果、排出物発生量の実績は前年度を大きく下回って前年比で 16% 減となり、再資源化率も 99% 以上を維持し、ゼロエミッションを継続しています。

今後も引き続き、廃棄物の排出抑制と資源の有効活用に努めます。



ごみの分別と再資源化の成果

本社・横浜事業所と白山事業所は横浜市より平成 24 年度「3R 活動優良事業所」の認定を受けました。両事業所は平成 19 年度より毎年優良事業所の認定を受けており、平成 24 年度も 6 月の横浜市資源循環局による職場審査を経て、6 年連続の認定となりました。



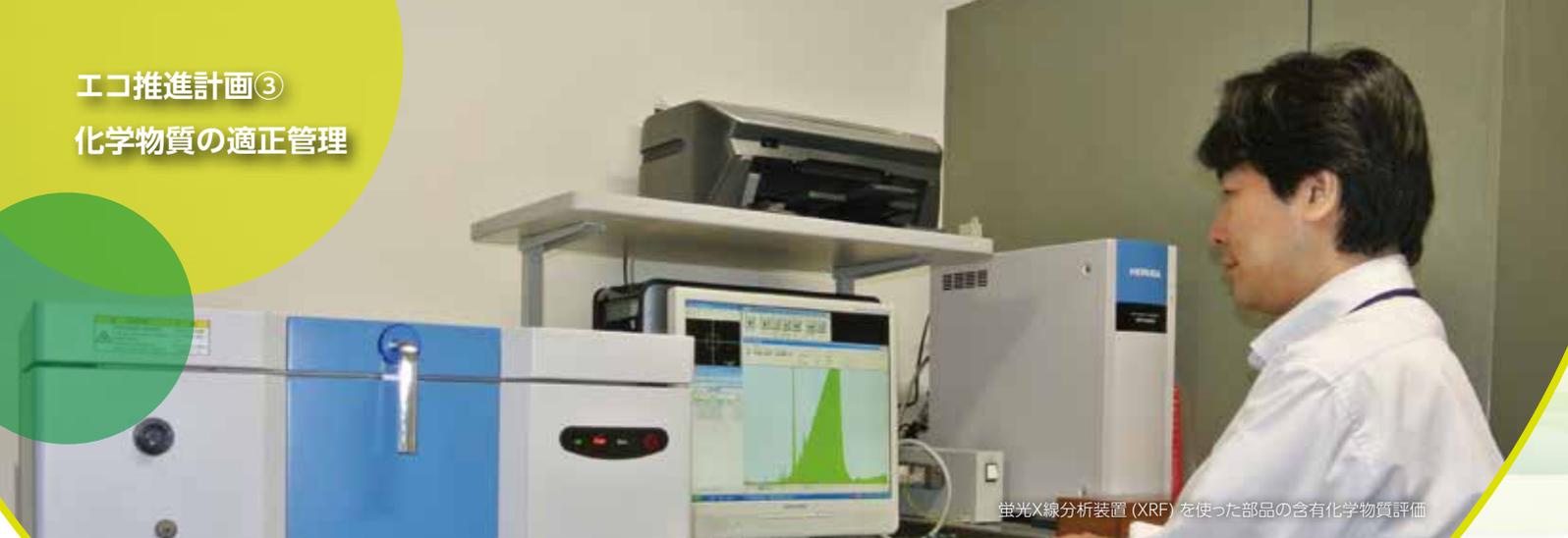
「3R 活動優良事業所」の認定 本社・横浜事業所 (左)、白山事業所 (右)

ごみの分別と再資源化への取り組み

ケンウッドフランス工場では多量に発生する梱包用の段ボールをプレス機で圧縮しリサイクル場へ輸送しています。圧縮することにより輸送効率がアップしトラックから排出される CO₂ 削減にも役立っています。

JVC アメリカ工場では DVD や CD 用の古くなったニッケル製スタンパーからニッケル部材を取り出し再資源化を行っています。ニッケルは耐食性が高くネジなどの製品に生まれ変わります。





蛍光X線分析装置 (XRF) を使った部品の含有化学物質評価

グローバルな化学物質管理で環境負荷低減を推進します

JVC ケンウッドグループは商品を製造・販売する世界各国の環境法規制に対応するために、化学物質の総合管理体制を構築し環境負荷低減を推進しています。

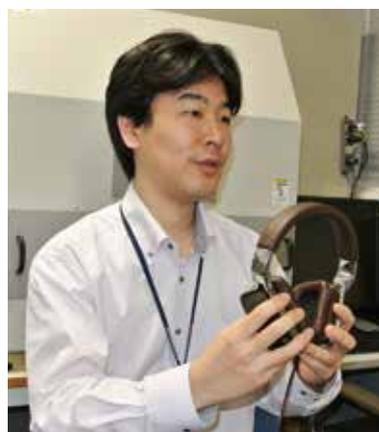
商品に含有する化学物質の総合管理体制

有害化学物質を削減し、安心してご使用いただけるヘッドホン

ヘッドホンはスマートフォンやデジタルオーディオプレーヤーの普及とともに、幅広い年齢層のお客様が使用しています。JVC ブランドのヘッドホンはスタジオユースモデルから全世界累計販売 5,000



人体に直接触れるヘッドホン



有害化学物質管理の重要性を語る
オーディオ事業部
技術統括部
加野 昌幸

万台を突破した廉価モデルまでの幅広いラインアップで全世界のお客様にご使用いただいています。

ヘッドホンは直接人体に触れて使用するものなので、有害化学物質の削減への取り組みにはいち早く対応しており、RoHS 指令に対応した商品の全世界展開はも

ろんのこと、フタル酸エステル類についても実際にスクリーニングを行い、規制物質の非含有を確認し管理をしています。

JVC ブランドのヘッドホンは、お客様に安心してご使用いただけるように、徹底した管理体制のもとで有害化学物質の削減を行っています。



液体クロマトグラフィー法によるフタル酸エステル類のスクリーニング試験

商品の含有化学物質管理とは

地球にあるもの全てが物質から構成されていますが、数多くの物質はそれぞれの特徴があります。

地球にやさしい物質や癌を促進するなど体に悪い物質など様々な特徴があります。

JVC ケンウッドの商品は、体に良くない物質や環境を阻害する物質を使用しない。または、使用を制限することで地球や体にやさしい商品を製造し、お客様へ“安心”を提供しています。



部品の含有化学物質を検査する
JVC ケンウッド エレクトロニクス シンガポールの品質管理担当者
Ms. Chua Lay Swee

含有化学物質管理の仕組み

化学物質管理の選定

世界各国では環境への意識が高まっており、続々と環境に関する法規制が審議・制定され、物質の使用禁止または使用の制限が定められています。

これらの法規制にもとづき、禁止物質や管理が必要な物質を決めています。

また、企業団体活動を通じ、いろいろな企業の方々と化学物質管理について議論しながら、世界各国の法規制の情報を入手しています。



化学物質管理の制定

ホームページでも公開している、グリーン調達ガイドラインで禁止物質や管理が必要な物質を定め、商品を構成する部品や材料を納めていただいているお取引先へ公開しています。

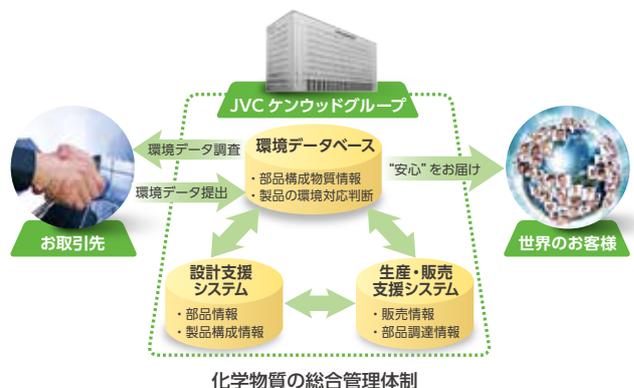
商品への反映

商品を構成する部品や材料を納めていただいているお取引先は、グリーン調達ガイドラインに沿って選定した部品や材料を納品していただいています。

システムによる確実な運用

お取引先から部品や材料の成分情報を入手し、システムで管理しています。

管理された成分情報を機種ごとに審査し、確実な運用の徹底を図っています。



事業所・工場の環境負荷物質の削減と環境リスクの低減

ポリ塩化ビフェニルの無害化処理

JVC ケンウッドグループではビクタークリエイティブメディアに一括保管していた低濃度 PCB 含有重電機器類の絶縁油を 2013 年 3 月に抜油作業を行い、無害化処理を実施しました。

これにより JVC ケンウッドグループで保有していた低濃度 PCB 汚染絶縁油は、全て無害化処理が完了しました。今後も継続的に全社レベルでの PCB 汚染



低濃度 PCB 汚染物保管倉庫内での抜油作業



低濃度 PCB 汚染絶縁油処理施設 (1100℃以上で焼却処理)

電気機器の無害化処理に取り組み、環境負荷物質の削減に努めていきます。

緊急事態対応

山形ケンウッドでは IC の品質解析装置としてモールドオープナーを使用し、開封に劇物にあたる発煙硝酸をごく少量ですが使用します。そこで、漏洩など緊急事態の発生を想定した訓練を定期的の実施するとともに手順書等の見直しに反映しています。また、発煙硝酸の保管冷蔵庫についても東日本大震災を機に地震を想定し冷蔵庫本体の固定、冷蔵庫内の試薬瓶



発煙硝酸漏洩対応訓練



発煙硝酸保管冷蔵庫の固定

も仕切りを設け転倒防止にも取り組み、環境リスクの低減に努めています。

環境に影響をおよぼす想定事故と事故予防関連規定・手順書

環境負荷物質	環境に影響をおよぼす想定事故	事故予防関連規定・手順書
灯油	タンクローリーから地下タンクへ給油時の漏洩事故	「環境施設運転管理業務（地下タンク貯蔵所）」
水処理剤類 ・ポリ塩化アルミニウム ・塩酸・苛性ソーダ	タンクローリーから貯蔵タンクへ投入時の漏洩事故	「薬品移送作業の緊急手順」
特別管理産業廃棄物 ・廃酸 ・廃油（有機溶剤等）	タンクローリーから地下タンクへ給油時の漏洩事故	「薬品移送作業の緊急手順」
有機溶剤類（アセトン）	危険物の漏洩事故	「緊急事態対応規定」 「危険物屋内貯蔵所緊急事態対応手順」
硝酸	使用時の漏洩事故	「山形モールドオープナー管理手順書」

化学物質の管理

JVC ケンウッドグループでは、事業活動で使用する化学物質の保管/使用/排出/移動量を管理しています。2012 年度は、改正水質汚濁防止法の該当有害物質 (28 物質) の使用状況を検証し、有害物質使用特定施設/有害物質貯蔵指定施設の新規対象と

なった施設の届出を実施しました。また、PRTR 法[※]では対象化学物質で 1 トン以上取り扱った物質はニッケルのみでリサイクル等により排出・移動量の減少を続けていきます。今後も管理の向上を継続的に推進して環境負荷物質の削減と環境リスクの低減に努めます。

※ PRTR: (Pollutant Release and Transfer Register) 化学物質排出移動量届出制度

地球環境との対話

JVC ケンウッドグループは「省エネルギー推進・3R 活動・化学物質の適正管理」を活動項目として、総合的な環境負荷の低減を行った結果として、美しい地球環境の健全性を確認しています。

「森の恵み塾」に参加 (本社・横浜事業所)

横浜市のみどりアップ計画(新規・拡充施策)の一つである「森の恵み塾」に参加し、横浜自然観察の森で外来植物の除去作業を体験しました。



地温暖化を防止する植林プロジェクト(JVC タイ工場)

2011年に大きな洪水の被害を受けた後で植林プロジェクトが発足しました。2012年8月10日に植樹し、全従業員で多くの木が育つことを祈りました。



中国ホルチン砂漠で植林 (日本ビクター労組)

1994年から中国の砂漠緑化運動に取り組み、毎年現地 NGO スタッフとともにホルチン砂漠で植林活動を行っています。



「法人会の森」の下草刈り (ビクタークリエイティブメディア)

神奈川県大和法人会の会員としてヤビツ峠「法人会の森」の下草刈りに参加しています。



親子で水質調査 (長野ケンウッド)

夏休みを利用して天竜川に注ぎ込む河川の水質調査を実施しています。発表会では汚れている場所の報告もしています。



水質調査と水生生物調査 (山形ケンウッド)

夏休みを利用して地域を流れる赤川、内川、青龍寺川で親子による水質調査と水生生物調査を実施しています。青龍寺川水系では希少淡水魚のイバラトミヨの生息も確認しています。



天竜川水系環境ピクニック (長野ケンウッド)

毎年天竜川の流域3箇所では従業員とその家族(特に小学生)が、環境美化およびその教育の一環として天竜川水系環境ピクニックに取り組んでいます。



飛島クリーンアップ (山形ケンウッド)

飛島は日本有数の渡り鳥の飛来地で、自然豊かな島ですが、多くの漂着ごみが流れ着く島であるため、2003年からクリーンアップ活動に参加しています。



JVC KENWOOD

株式会社 JVCケンウッド

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3丁目-12番地

●お問い合わせ先

総務部 環境・社会貢献室

Tel: 045-450-2827 Fax: 045-453-1406



この環境グリーン・シンボルマークは、JVCケンウッドグループの環境配慮に取り組む姿勢、または取り組み内容を示すために使用するシンボルマークです。
JVCケンウッドグループにおける環境活動のシンボルとしてカタログや環境ポスターなどに表示し、社内での啓発や社外へのアピールをするために使用しています。

環境グリーン・シンボルマーク